

新聞報道からみた陸上競技

—男子 100m に着目して—

木下 美里 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)

指導教員 後藤 英文

キーワード:新聞報道,陸上競技,男子 100m

1. 緒言

新聞には大きく取り上げられる記事が必ずある。例えばメジャースポーツのサッカーや野球などは取り上げられやすい。しかし、陸上競技は五輪のメイン競技にも関わらず、五輪本番以外ではそれほど大きく取り上げられていないのが現状である。最近ではK選手が2013年の広島・織田記念大会男子100mで日本歴代2位の10秒01をマークした影響もあり、陸上競技が新聞紙面を飾ることが増えた。そこで、新聞報道には五輪競技であるだけでなく、その時期に注目されている選手の存在が大きく関わっているのではないかと考えた。その一つの例として、陸上選手のK選手を取り上げた。

2. 研究方法

1)調査対象者

- ・スポーツ紙のアマチュアスポーツ担当記者
- ・K選手の地元新聞社の陸上担当記者
- ・通信社の陸上担当記者

2)調査方法

- ・インタビュー調査(9～11月に終了)
- ・紙面調査

K選手が新聞に取り上げられる以前の陸上に関する紙面と、K選手が10秒01を出した織田記念大会(2013年)の紙面、K選手が注目されて1年後の大会の紙面を比較する。北京五輪(2008年)の陸上紙面や歴代の日本記録誕生時の紙面なども調査した。

3. 結果と考察

インタビュー調査を3人の記者に行い、そのインタビューを比較考察した結果、当時17歳の高校生が10秒01で走り、日本人初となる9秒台に迫っているという状態が多くの人々の興味を引き付けたことがわかった。さらに2020年東京五輪が決定したことにより、今の段階では1番の有力候補であるK選手を報道陣は東京五輪まで報道し続けることができると考え、準備していることがわかった。このようなことからK選手には注目されるような土壌や条件がそろっているといえる。

紙面調査ではK選手の影響によって同選手以外の陸上競技の取り扱い方が大きくなるといった変化はなかった。あくまでK選手は例外的な注目選手という位置付けだということがわかった。

4. まとめ

本研究では、陸上競技が五輪以外では新聞紙面を飾ることが少なく、それでも取り上げられ続けるK選手には一体どのような要素や背景があるのか明らかにした。今後の展望として、陸上競技以外でもこのような現象が起こっているのかを調べ、報道の在り方について考えるきっかけにしたい。

引用・参考文献

- A新聞 1998年12月14日夕刊など
- K新聞 2014年4月30日朝刊など
- Y新聞 2014年9月3日夕刊